

Z113a 市民科学で繋ぐ”Astronomical Culture”と”Cultural Astronomy”の「天文文化」

大西浩次 (国立長野高専), 早川尚志 (名古屋大学), 陶山徹 (長野市立博物館), 渡辺真由子 (茅野市八ヶ岳総合博物館), 「長野県は宇宙県」天文文化研究会メンバー、「市民科学」プロジェクト参加者ほか

「長野県は宇宙県」では、プラネタリウム関係者や天文同好会のメンバー、研究者らが協働し、「市民科学 (Citizen Science)」的な研究活動を展開している。その主要なテーマの一つとして、1922年の設立以来100年以上にわたり活動を続ける市民天文同好会「諏訪天文同好会」を事例とした、“Cultural Astronomy”の視点からの「天文文化 (Astronomical Culture)」研究がある。これらの成果の一部は、記念シンポジウムの開催や企画巡回展などを通じて公表してきた。この過程の中で、太陽黒点観測者 (市民科学者) による100年にわたる観測データの整理・解析・アーカイブ化という「市民科学」的レスキュー活動が始動した。その初期成果として、三澤勝衛による太陽黒点観測記録が、長期的な太陽活動変動の参照データとなる国際太陽黒点相対数の改定作業において、確認・再較正のための基礎データとして有効であることを示した (Hayakawa et al. 2024, MNRAS)。

一方で、“Cultural Astronomy”としての「天文文化」研究を深化させるには、多くの市民による理解・協力、さらには主体的な参加が不可欠である。「長野県は宇宙県」の活動の目的は、すなわち「天文学が人々の文化の中に根ざした状態」；すなわち “an Astronomical Culture that allows everyone to feel close to the universe” の創出にある。このような「天文文化」の創出活動こそが、“Cultural Astronomy”としての学術的研究への理解と協働を促すものと考えられる。

本発表では、「長野県は宇宙県」における市民科学的活動が、どのように “Astronomical Culture” としての「天文文化」を醸成し、さらに “Cultural Astronomy” の実践的研究へと接続しているかを報告する。